

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年5月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4699200012
法人名	株式会社グループホーム天望台
事業所名	株式会社グループホーム天望台
所在地	鹿児島県大島郡天城町瀬滝677番地1 (電話) 0997-85-4722
自己評価作成日	令和6年4月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホーム天望台は、自然豊かな集落の中心地にあります。徒歩圏内にはスーパーや郵便局、学校、福祉施設等の社会資源にも恵まれています。県道沿いに隣接し、交通の便もよく、通りすがりの地域の方々や関係者の皆さんが気軽に立ち寄って頂ける施設で、施設の中も広々と明るく、ご利用者、職員が顔見知り、なじみの関係となり笑い声が絶えない施設です。

・当施設では「①その人を受け入れ尊重します。②ゆっくり、一緒に楽しみながら穏やかに暮らしていくことを支えます。③地域の方達と常に交流を持ち、行事に参加したり、積極的に外部に出かけ地域の一員として暮らします。」を理念に掲げ、毎朝職員、ご利用者と一緒に理念の唱和を行い、共有しています。コロナの影響を受け、地域行事への参加も難しくなってきましたが、昨年より地域の行事への参加、ドライブ、外食など外出の機会を確保できるようになってきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所は利便性のよい集落の中心部にありながら、自然に囲まれて眺めの良い場所にある。

・コロナが第5類になり、地域との交流や地域行事への参加も出来るようになってきている。散歩時の挨拶や地域住民からの差し入れ、事業所が通学路になっているので学校へ通う子供との交流もある。運営推進会議に地域の関係者の参加もあり、地域の情報も得られている。

・勤続年数の長い職員が多く、利用者寄り添ったケアに取り組んでいる。

・職員間のコミュニケーションも良く、管理者は職員の個人的な相談にも快く応じている。管理者と職員は、利用者が日々笑顔で過ごせるように見守りながらのケアに取り組んでいる。

・事業所内に菜園があり、収穫を利用者と一緒に楽しみにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、食堂にて職員、利用者として理念を唱和し共有し常に理念に沿ったケアができるよう心がけて対応している。	毎朝、職員と利用者は、一緒に理念の唱和を行っている。理念は食堂に掲示し、パンフレットにも掲載している。全職員が理念を共有し日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響があり、地域行事への参加が難しい状況でしたが、昨年からは敬老会への参加など、交流の機会を確保できる状況になってきている。	地域の敬老会やクリーン作戦に参加している。小学生の持久走大会の応援や近隣の散歩時の挨拶や野菜の差し入れ等、日常的に地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議には、老人会長、区長、民生委員、役場の方に参加して頂き、意見交換をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の活動状況、利用者様の利用状況、状態等を会議を通して報告を行い、指摘を受けた事は職員間で話し合い改善策を見つけ出せるように対応している。	2ヶ月毎に対面での運営推進会議を実施し、利用者の状況や事業所の実情等を報告している。AEDの必要性についての意見が出され、導入を検討している。小学生との交流の提案を受けて、餅つき大会を計画中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加頂き、情報提供を頂いている。又自施設で解決できない問題等は電話、又は役場に行き助言をもらっている。	書類提出や相談で窓口に出向いている。運営推進会議にも参加してもらっている。島内のグループホームと2ヶ月に1回交流会を行い情報交換をしている。研修会の案内もあり参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議の中で定期的に勉強会を持ち、身体拘束をしないケアについて常に意識を持ち対応できるように取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を中心に職員全員で関わっている。職員会議の中で定期的に勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気付いた時にはその都度声掛けを行っている。利用者が外に出たい時は職員と一緒に散歩に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会、自己評価アンケートを実施、虐待防止への意識を高めれるよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	資料も用いた研修を行うほか、自己評価アンケートを実施、権利擁護に関する意識を常に持ち利用者様に対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約内容について、具体的に説明をし、納得と理解して頂けるようにしている。退所についても、家族としっかりと話し合いをしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>重要事項説明書に苦情受付窓口を記載、契約時に説明をしている。問題が起こった際には職員間で情報を共有、可決策を検討している。</p>	<p>家族とは面会時に話をすることが多い。ホーム便りは個人別に発行しており、家族に送付して意見を聞く機会としている。利用者からは日々の生活の中で意見を聞いている。意見箱も設置している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回には職員会議と定め、日頃思っている事や、改善点など話し合える機会を設けている。又可能なかぎり、職員の意見を取り入れ改善できるようにしている。</p>	<p>毎月の職員会議で話をする機会を設けており、ケアについての事が多い。失禁の多い利用者を2時間毎にトイレ誘導し失禁がなくなった事例等があり、職員の意見・提案を運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>処遇改善加算の申請は基より、勤務表作成時には希望を取り、働きやすい職場環境に努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実務者研修、介護福祉士資格取得時には、無理のない勤務体制を提供できるようにしている。施設外の研修に全員参加できるよう努めているところです。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年に数回程は、グループホーム管理者が集まり、情報交換等を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い、心身の状況や生活状況を把握し、職員間で情報共有してから受け入れる様に取り組んでいます。要望や困り事を聞き、安心して生活が送れる様に努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始する段階で、困り事、悩み事、施設での生活の希望を傾聴し関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が求めている支援を見極め、市町村への相談や、早急に施設入所が必要な場合などは他施設への申し込みを勧めたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る簡単な家事の手伝い、洗濯物たたみや、野菜の皮むき等をお願いし協力して頂き自立支援を促しながら共に暮らす関係性を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの本人と家族との関係性を理解したうえで、よりよい関係性を築いていけるように努め、職員と家族で本人を支える支援ができるように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響もあり面会、外出が難しい状況もありましたが、面会、外出、外泊の制限は極力せず、家族、知人との繋がりが保てるように努力している。	家族や知人等の面会を玄関ホールで行っている。電話や手紙の取次ぎもしている。墓参りや外食・外泊等の支援は家族の協力をもらい、買い物は職員が同行している。2ヶ月に1回訪問美容師を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	玄関ホール、食堂スペースにソファを置き、くつろげる場所を確保している。又利用者様の関係性を把握し、座席の位置を工夫することで、楽しみを持って生活できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了、他事業所へ変わられた後も、相談がある際には情報提供等行っている。外で家族の方とあった際には声をかけ、近況を伺ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的に本人に聞き取り、意向の把握に努めている。困難な場合は家族へも相談している。本人の思いや意向を尊重し施設でも本人らしく、今までの生活が継続できるよ支援している。	テレビを見たりゆっくり過ごしている時に話をされることが多い。困難な場合は家族や以前の事業所等に話を聞いたり、アセスメントを参考にしながら情報を職員間で共有し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からだけではなく、家族や入所前に利用していた事業所等から話を聞き把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での生活状況を確認しながら、心身状態の把握に努めている。又職員間でも気づいたことは情報を共有しあえるように話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様に生活の中での意見や思いを傾聴し介護計画に反映させている。月1回の職員会議で職員からの意見や家族、医療と連携を図り介護計画を作成している。	利用者に意見を聞き、家族や職員・医師とも連携を取りながら介護計画の作成を行っている。モニタリングは6ヶ月、見直しは1年であるが状況変化に応じて随時見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子観察を行いながら毎日各勤務ごとに状態、食事、水分量、排泄を記録に残し、情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に家族が支援される一方にならないようにと考え、受診等は家族に任せるようにしているが、家族が付き添い出来ない際の病院受診や、手続き等は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで制限がかかっていたが、集落の敬老会への参加、協力員、役場、運営推進会役員などの協力を得て、交流会を再開しつつある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけではなく、入所前からのかかりつけ医に見てもらえるようにしている。往診がない医療機関の受診の際には家族の協力を得て対応、難しい際には施設にて対応している。	本人・家族の希望するかかりつけ医になっている。月1回の往診があり、歯科医や他科受診は家族または職員が付き添っている。かかりつけ医との関係を築きながら適切な医療が受けられるよう支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>往診時にはこちらの情報提供や対応等の助言をもらっている。日常で変化があった際には電話を通して対応して頂いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族や、病院の事務、看護師だけではなく、医師やソーシャルワーカーと連絡を取り対応している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時にご家族と重度化に向けての施設の方針を話し合っている。終末期に向けては、ご本人、家族の以降を尊重し、医師、関係者と共に支援を行っている。</p>	<p>契約時に本人・家族と重度化について話をして、事業所の方針を伝えている。状況変化に応じて主治医から家族へ意向について確認をしている。訪問看護を活用して看取りも行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員で、利用者様の病歴や既往歴などの情報を提供し、職員会等で対応の仕方を話し合っている。防災訓練にて、消防士を招き、緊急時の対応の勉強会等も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防署への依頼での実施、自主防災訓練を行っている。コロナの影響で地域住民への協力を依頼できない状況でしたが、近隣住民に依頼し防災訓練を実施する予定です。</p>	<p>年2回昼夜を想定して火災・地震の防災訓練を消防署の立ち合いで実施している。自主訓練も行っている。事業所近くの災害避難先が避難場所になっている。今年度は地域住民への防災訓練の協力を依頼する予定である。備蓄は米・水・レトルト食品・缶詰等、約3日分の準備をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
依頼する予定である。備蓄は					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの声掛けや人格を尊重しプライバシーに配慮した支援を行っている。気づいたときは職員同士でも注意しあえるように心掛けている。	名前は苗字、又は家族に確認して希望の呼称で呼んでいる。トイレ誘導は小声で、入室時はノックをしてから等、羞恥心やプライバシーに配慮している。申し送りは小声で行いノート記載確認を行っている。尊厳等やプライバシーについて職員会議で研修をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今、やりたいと思われされることを止めず、職員が付き添い見守り納得して頂くように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、その人のペースに合わせて柔軟に対応している。買い物や散歩等もその人に合わせ出かける援助をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的美容師に訪問を依頼し対応している。髪型等は本人の要望を聞いて頂くようお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けの際には、職員と一緒に野菜の皮むきをしてもらったり、お膳拭き、台拭きを交代で手伝ってもらっている。	食事は職員が調理している。献立は差し入れや事業所の菜園で採れた野菜等を活用して旬の物を使って、利用者の形態に合わせて提供している。利用者と職員は一緒に食事の準備や片付け・野菜の皮むき・台拭き等を行っている。誕生日等にはケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶、牛乳、ミキ、ヤクルトなど、利用者様が望む時は、お茶時間以外にも摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声替り、誘導、ご自分で出来ない方は、職員の介助にてふき取り、うがい等の支援を行い清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に記録を残し、トイレへ行かれる方は失敗が減らせるように声かけ、介助が必要な方は定時に声かけ、誘導、一部介助を行っている。	排泄チェック表を作成して個々の排泄パターンを把握し、時間毎に声かけや誘導を実施している。骨折後の歩行訓練でトイレまで歩行ができるようになったり、定時に声かけをしてトイレ回数を増やしたことで失禁の回数が少なくなった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や牛乳、ヨーグルト、繊維質の食事を心掛けている。かかりつけ医にも相談、服用管理も含め助言を頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	浴槽にもお湯を溜め、好きな方にゆっくり浸かってもらい、湯温調整もその人に合わせ対応している。入浴日以外に訴えがあった際にも、入浴して頂くように支援している。	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴を実施しているが、希望する場合はいつでも入浴できるようにしている。シャワー浴、浴槽を利用しての入浴等、本人の希望に応じ、好みの温度の湯船にゆっくり浸かってもらっている。入浴拒否者は曜日や時間を変更し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯後も明かりがあった方が良く、という方に対しては、電器は消さず、冷暖房も本人の好みを優先に調整、各居室に温度、湿度計を置き目安にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容が分かりやすいように薬表を作成、飲み込みが悪い際には医師に相談、形状の変更の依頼をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声かけ要望を聞いて、外に出かけたい方はドライブ、散歩へ行ったり、洗濯物たたみ、新聞たたみなど手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	全利用者様を対象とし、ドライブ、飲食店に出向き夕食等の支援を行っている。又利用者様が家に行きたいと言う時は家族に連絡、一緒に行ってもらったりしている。	年間計画を作成し、花見やドライブ・外食・自宅訪問をしたり、日常的には散歩に出かけている。小学生の持久走大会の応援やトライアスロンの応援も行っている。家族の協力をもらいながら日常的に戸外に出かけられる支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員お金を持つことの大切さは理解されているが、利用者様の状態によって金銭管理が難しい方もおられる為、施設にてお金を管理している。必要時には買い物の支援を職員、家族が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者様が電話したいと言われた際には職員がかけてあげ、手紙が届いた際には代読、読める方には手渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に家族からの贈り物の花や、季節の花を飾ったり、写真を貼ったりしている。	玄関ホールが広く、面会や運営推進会議は玄関ホールで行っている。リビングには空気清浄機があり、定期的に換気も行っている。テレビやソファ・テーブル等があり、利用者がくつろげるスペースになっている。壁には利用者の作品や行事の写真を掲示し、居心地よく過ごせる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関前や廊下、居室前にソファを置き、数名でお話ができる場所がある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>部屋には押し入れ、ベッドが備えられ、部屋窓際には縁側が設置されている。身体の状態に合わせた配置を行い、居心地の良い環境作りに配慮している。</p>	<p>居室にはエアコンやクローゼット・ベッドを設置し、テレビや椅子・家族の写真・ぬいぐるみ・使い慣れた家具等を持ち込み、家族と相談しながら、安心して居心地良く過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下には手すりを設置、なるべく自分で歩行が安全に維持できるよう、安全な動線の環境設定を行っている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない